

経営比較分析表（平成29年度決算）

千葉県 南房総市

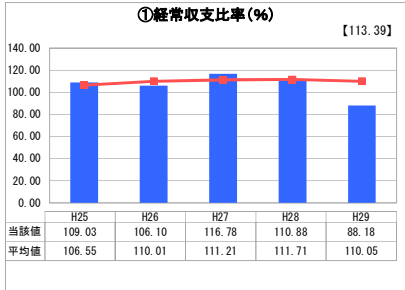
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	76.97	72.71	3,790	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
39,026	230.12	169.59
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
28,160	118.83	236.98

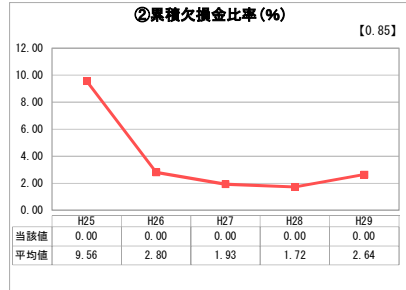
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成29年度全国平均

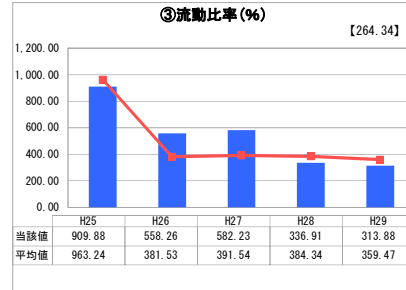
1. 経営の健全性・効率性



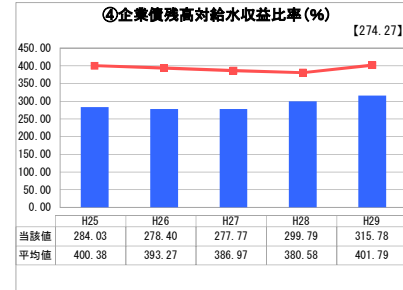
「経常損益」



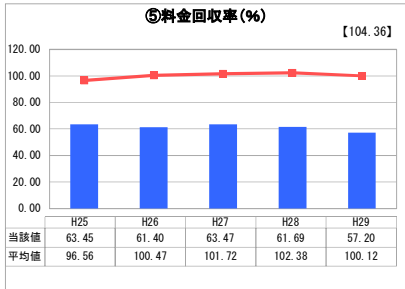
「累積欠損」



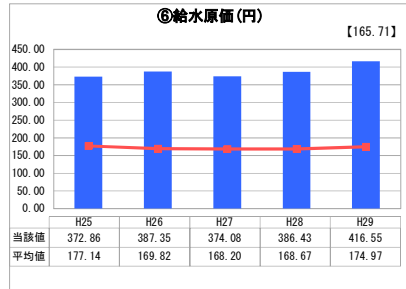
「支払能力」



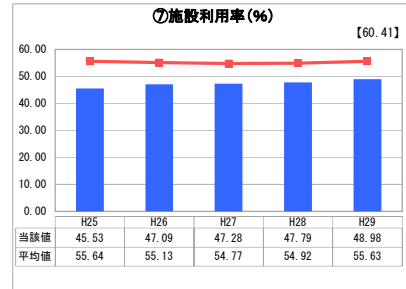
「債務残高」



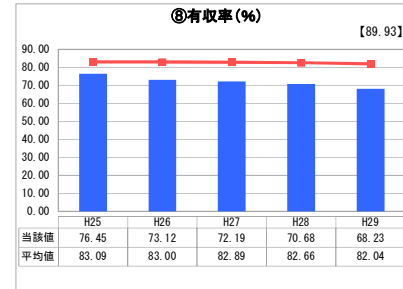
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

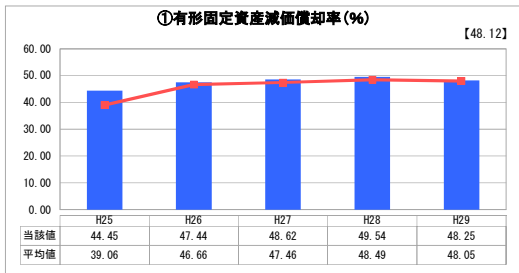


「施設の効率性」

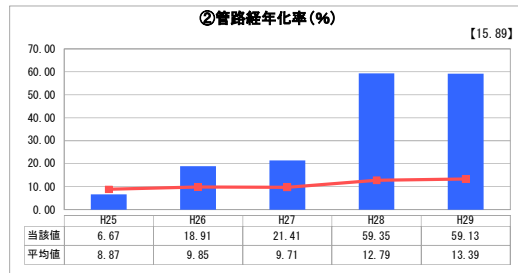


「供給した配水量の効率性」

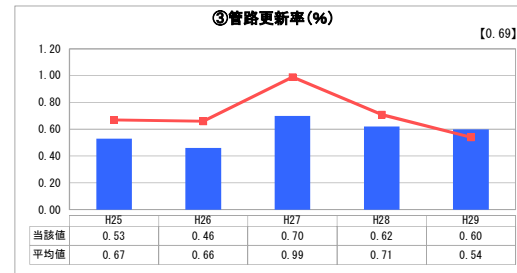
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水人口の減少による給水収益の減少と排水処理設備更新工事等による資産減耗費の増加により平成29年度は赤字計上となった。
給水原価が類似団体の平均を大きく上回っているが、費用の50%以上を原価償却費と浄水の受水費で占めている。
給水のための費用は、給水人口が減少していても給水区域は変わらないため現行の施設を維持しなければならないことと、半島の先端という水源に乏しい地理的要因からも浄水の受水は維持せざるを得ないことから、今後の費用抑制は困難な状況である。
料金回収率が約60%であるにもかかわらず前年度まで黒字計上ができていたのは、県及び他会計からの補助金によるものである。
以上のことから、経営の健全化のためには補助金への依存度の低下、水道料金の値上げによる給水収益の増加及び老朽施設管路の更新のための財源の確保が課題となってくる。

2. 老朽化の状況について

平成26年度に管路の経年化率が12%上昇し平成28年度も38%上昇しているのは、昭和51年創設の管路が同時期に耐用年数を超えたことによる上昇で、この現象は続くことから、管路の経年化率はさらに悪化していく。
また、法定耐用年数を大きく超えた石綿セメント管が存在しており、管路の更新を進めているものの老朽化した浄水施設の更新も同時期に進めていることから、管路更新率はここ数年低く抑えられている。

全体総括

人口減少による給水収益の減少を解消するため、平成30年度から水道料金の改定（5%増）を実施したが、減価償却費や受水費などの費用抑制は見込めないことから、今後も収支の悪化は避けられないと予想される。
有収率向上のためにも、老朽化した管路の更新は急務であり、市の一般会計からの補助金収入の維持が困難なため、将来の更新需要における財源確保のための効率化が、引き続き今後の課題である。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。